

vol.46

アイアム

LOGO DESIGN by Aimi Kawagoe



福井の育児なう。

まる・さんかく・しかくインタビュー

LOOK&COOK ～見・聞・食のコーナー～



平成23年度「男女共同参画社会づくり」小中学生 図画・ポスターコンクール 小学校高学年の部 金賞

福井の育児なう。



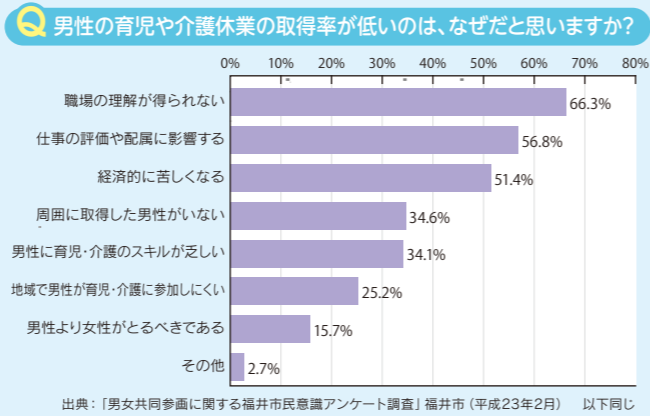
イクメン？
イクジイ？
教えて～
塚本先生！！

本日は、先生の研究と学生さんたちの様子などからわかる福井の男女共同参画についてお話を聞きたいのですが、先生ご自身が家事も苦にならないとか？

はい、35歳の時福井に来ましたが、子どもの時から台所などよく手伝っていたので、一人暮らしも苦になりませんでした。滋賀で高校教師をしていた妻は結婚しても仕事を続けていて、週末婚の状態が数年続きました。出産後も育休をとった後、働いていましたが、去年福井に越してきて、親子3人での生活を楽しています。朝は毎日、私が娘を幼稚園へ送って行きます。夜も寝る前に絵本を読んであげます。休みの日にはよく料理もしますよ。

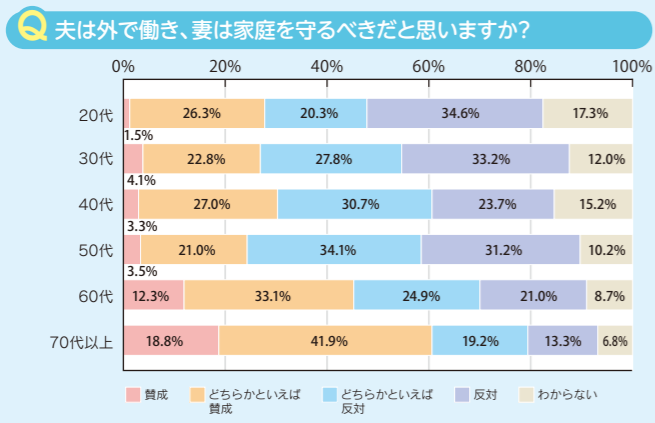
まさにイクメンですね。イクメンを増やすには、男性が育児休暇をとれるとよいのですが、まだまだとりにくいですね。意識は少しずつ高まっているようですが、やはり職場の理解が得にくいようです。

女性の管理職が増えてくると、その空気も変わるのですが、福井の女性は家事・育児に忙しく働いているのに、男性はそれほど家事をしていないという統計もあります。だから女性が管理職になりにくいんですね。



大型スーパーが早朝から営業していること、お惣菜がたくさん売られていることはびっくりしましたね。共働きが多いという統計を裏付ける事実ですね。幼稚園では祖父母の送り迎えが多いですね。三世同居や福井型の修正拡大家族*（三世近居）が多いのでしょうか。30分ぐらいで行けるとところに祖父母が住んでいて、いわゆる孫守りをしてもらっているんですね。

*子世代が住居を構える場合に、親世代の近傍に居住し、同居に近い経済的・心理的關係を恒常的かつ緊密に維持する家族関係



実際その影響を感じますか？

大学で女子学生たちと話していて、「結婚しても働きたい。だから夫には家事を手伝ってほしい」と言います。平等だったら、『分担』と言うはず。もちろん家庭内の影響だけではないと思います。若い人はメディアに左右されやすいですから、洗濯機などの『白物家電』のCMに女性タレントが起用されているのを見て、『家事の主役は女性』と刷り込まれている感じ。でもここ10年～15年ぐらいで大きく変わってきた感じはあります。TVで人気アイドルが料理をしていたりするので、「誕生日などに男の人に料理してもらえるとうれしい」なんて発言が出ていますから。

今回のテーマは子育てです。新聞などではイクメン・イクジイなど、男性の子育てが注目を浴びている今日この頃ですが、果たして本当に男性の子育てや家事に対する意識が向上しているや否や？今回は福井市在住のイクメン塚本利幸先生と一緒に考えてみました。

男の子にも女の子にも家事の技術を身につけさせるべきと考えているのは、『若い世代』『女性』に多いという調査結果もありますね。

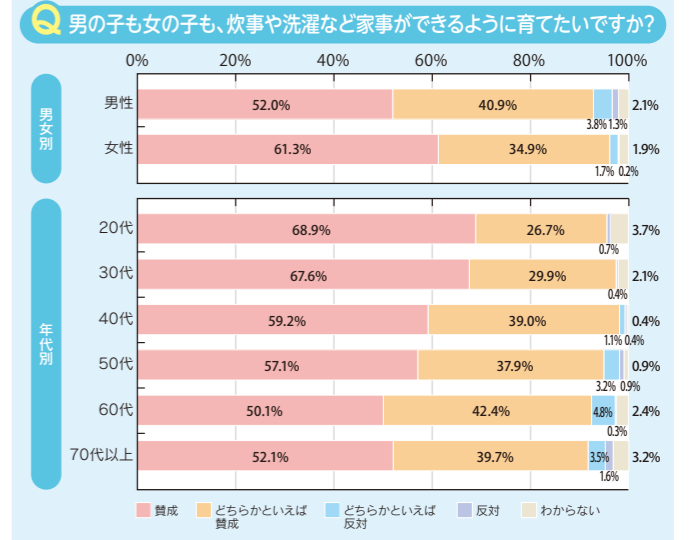
古くは『男子厨房に入らず』などという言葉がありました。これは儒教思想が影響していると思われ。その思想が伝わっていない平安時代は、貴族のたしなみとして料理を勉強していたものと思われ。お客様へのおもてなし料理の指示を出している木簡が出土しています。それから、子育ても江戸時代は男性が主導権を握っていたようで、父親向けの育児書のベストセラー*もあります。イクメン、イクジイは新しいものではないと思います。

*『農家訓』山名文成、『父兄訓』林子平、『父子訓』中村弘毅、『養育往来』小川保庵など

私の知人で「学生時代は男女平等だったので、就活の時に男女別の求人を見て改めて性別の違いを認識した」と言う方がいました。

今の学生さんたちは女性がリーダーになることにも抵抗はないのでしょうか？

そうですね。部活動のリーダーが女性のこともよくあります。これもTVで女性の上司が活躍する番組などがあることも影響しているのでしょう。今の若い世代が社会の中核を担う頃には、女性の管理職も増えていると思います。でも、相変わらず、運動部で『女子マネージャー募集』なんて張り紙も見ますから、やっぱりまだ過渡期かな。



学校ではみな平等にと考えてますからね。ただ、保育園や小学校は女性教諭が中心。年齢が上がって、高校、大学では男性教諭中心というのは少しバランスを欠いていると思いますが。

少子化もなかなか改善しませんね。

今は不景気で社会全体のリスラの影響が若い世代中心に及んでいます。生活が安定しないとなかなか結婚しにくいので、したがって少子化が改善しません。これからは共働きでやっていく家庭がますます増えると思います。ですから夫婦協力してやらないと難しいですね。子育てを社会全体で支える体制も必要と思われ。そのためにも、出産を経験した女性の社会進出が望まれます。

本日はお忙しいところありがとうございました。

塚本 利幸氏 (48歳)
県立大学看護福祉学科准教授
県男女共同参画審議委員



—カナダのご出身だそうです、来日のきっかけと日本の印象は？
1999年に英会話講師として来日したのですが、最初の赴任先が縁あって福井市でした。それ以来、福井を愛し、少しでも国際社会への架け橋になればと活動しています。

—マークさんから見た福井の子育てはどうですか？
福井に限ったことではないのですが、日本ではお父さんの帰宅が遅い家庭が多いことに驚きます。外国では家族と一緒に時間を楽しむというライフスタイルなので、お父さんの帰宅時間は早く、平日毎日平均3時間位は子どもと一緒に過ごせる時間があります。私は外語学院でいろんなお子さんと関わっていますが、男の先生に関わろうとする子が多いように感じます。一概に関係性があるとは言えないかもしれませんが、もしかしたらお父さんと関わる時間が少ないことが原因の一つとしてあるのかもしれない。

また、塾に通うお子さんが多いことにも驚きます。外国には日本みたいに塾はありません。以前、知人からあるお子さんの意見として聞かされたのが、「塾で勉強するから学校での勉強は必要ない」という内容のものです。これにはびっくりしました。さらに、これは外国でもそうなのですが、TV、インターネット、ゲームが普及し、子どもの遊びが変わってきているのを感じます。私が子どもの頃は、TVは30分までと言われた時代でしたが、後は外に行って遊ばないと言われたものです。遊びの中から他者とのコミュニケーション力を学んだものです。



子どもに伝えたい大切なこと

マーク ネセラさん
外語学院経営 39歳
妻と娘二人

伊藤 真寿江さん

看護師 44歳
夫と息子二人 娘二人(長男は結婚して別家庭)



家事に育児に仕事に孫育てに…

—お子さんは4人いらっしゃるのか？
長男は22歳、次男は19歳で共に社会人です。長女は12歳、次女は9歳でまだまだ育ち盛りだから大変です。長男は結婚していて、そこに孫も2人います。

平日と月2回の土曜日、パートとして看護師の仕事をしています。子どもを産むたびに半年から1年ほどお休みを頂きつつ、それでもほとんどずっと働いていますね。ちょうど、子どもが4人とも高・中・小・幼だったときが一番大変でした。パートと内職を兼職していたので忙しさがピークで、寝る暇もない日が続きました。

今は長男夫婦の娘2人の面倒を見ることもありますが、それも月に1、2回程度。負担というよりは、楽しくやれています。

—お子さんやお孫さんがたくさんいて、良かったこと・悪かったことを教えてください。

最近、体力を使うので子どもを叱るのがつらいです(笑)そんな時に、息子が私の代わりに娘を叱ってくれるので助かっています。昔から息子たちは子育てに奮闘する私の姿を見て、家事も手伝ってくれていました。娘たちは孫の面倒をよく見てくれます。常に自分より小さい家族がいる環境なので、家族全員とても仲がいいです。

長男夫婦の家事分担の仕方など、子どもから学ぶことは日々ありますが、子どもがいて悪かったことはないです。強いて言うなら…お金がかかったことくらいかな(笑)

—4歳と2歳の娘さんがおられるそうですが、子育てで気をつけていることはありますか？

愛・公平さ・仕組みでしょうか。子どもが迷わないためにも、「子どもには駄目と言って大人は良い」とか「お父さんは良いと言ってくれたのにお母さんには駄目と言われる」等、大人の都合で意見を変えないということ。毎日の挨拶のように当たり前に戻される習慣。それがどうして大切なのだろうと考えられる心を育むことです。

—休みの日はどんな過ごし方をしていますか？
動物園、水族館、公園など、自然の中で遊ぶことが多いです。家の中では絵本も読んだりしています。自分がリラックスするための時間も持ちたいと思いますが、子どもはそんなこと構いませんよ。なので、できるだけ、子どもと家族と過ごす時間を優先しています。

*マークさんの家族・人への愛情、コミュニケーションを大切にされていることを強く感じました。大切にしている部分はそれぞれ違いますが、大切にしたい部分について改めて考えさせられる機会をいただきました。ありがとうございました。

まる さんがくしがく インタビュー

今を去ること〇年前、家に真ん丸(まる)い玉のような子が生まれました。保育園では元気に遊び、小学校では給食当番で三角(さんかく)巾をして…。それが今では大学で資格(しかく)を取るために奮闘しています。子どもが育つのは“あっ”という間ですね。

—家庭での家事の分担はどうしていますか？
子どもには度々家事を手伝ってもらっています。それに引きかえ夫は…(笑)

それでも、最近は長男夫婦の様子を見て家事を手伝ってくれるようになりました。休みのたびに子どもを連れて海に行ったりバーベキューをしたりしているので、子育てには昔から関心を持っているようです。車でどこでも行くのが好きで、長崎や仙台まで行ったこともあります。

今の若い夫婦の中には、遊んだり趣味のために子どもを託児所や親に預けてまで自分の時間を確保する人もいますので、それには驚きます。やっぱり子どもができたら、子どもを自分の時間に合わせるんじゃなくて、子どもの時間に自分の時間を合わせるべきだと思います。

*若くして孫2人のおばあちゃんとなった伊藤さん。子どもの時間に自分の時間を合わせる、という言葉通り、取材中に学校から帰ってきた娘さん二人と会話してインタビューも中断してしまいました(笑)次女も一緒に写真に写ってくれました。本当に仲の良い家族なんだなあと改めて実感しました。

—娘さんご夫婦と同居されているのか？
そうです。娘夫婦は共働きなので、平日は小学生の孫二人の面倒を、私がみています。

—一番困っていることは何ですか？
娘夫婦と私の意見が食い違うことで悩む時があります。例えば娘夫婦は、いろいろな習い事を子どもにさせたがるのですが、結局その送迎は私の役目なので、私の自由時間が少なくなり、時間のやりくりが大変です。実の娘なので遠慮なく私にいろいろなことを頼むことが多く、嫁姑とは別の悩みもありますね。

—お母様のお世話もされているんですね。
“スプーのさめない距離”に85歳の実母が一人で住んでいて、その世話も私の役目です。朝、孫を送り出したあと、すぐ母の所へ行き、家事をし、昼食を作り、又自分の家に引き返し、家事をこなすと完全に午前中はつぶれます。午後から少し自由な時間がありますが、孫が帰宅する前に夕食を作りますから、てくてこまいです。そのうえ習い事の送迎が入ると、さらに忙しいです。

娘夫婦のどちらかが帰宅すると私は又、母の家に行き、一緒に夕食を食べて帰宅という毎日です。母は、持病があるので週数回は病院へも連れて行き、孫と母の世話で、一日があっという間に過ぎていきます。

孫と実母の世話で毎日てくてこまい！ でも楽しみもありますよ

中田 恵子さん(仮名)
主婦62歳
夫は会社員 娘一家と同居



天方 元気さん・あすかさん

会社員 32歳 児童クラブ職員 32歳
娘一人

夫「子どもがかわいくてしかたがない」 妻「たっぷり愛情を注いでもらって幸せ」

—お二人は子どもNPOセンター*で知り合って結婚されたのか？
夫：はいそうですね。僕は小さい頃から子ども劇場の会員で劇を観たり、中学生・高校生のグループで活動をしてきました。大学で一時福井を離れたんですが、帰福してお世話になった人達に声をかけてもらい、職員として働くことになった時に会いました。

妻：私は福井大学教育学部に入学したことがきっかけで、子どもと接する仕事をしたいと思いました。在学中に大学の先生の勧めで、チャイルドラインにかかわることになり、卒業後子どもNPOセンターの職員となりました。一時センターから離れることもありましたが、出会った時に誘われた子ども劇場と子どもNPOセンターとは関わり続けていたんです。いろんな活動をする中で彼と感性が合ったので結婚しました。

—お二人が子ども劇場で中高生と関わったり、あすかさんが現在児童クラブの子どもたちと関わることで感じていることは何かありますか？

夫：僕が中高生の時は青年と言われる人がいなかったの、自分たちでいろんなことを決めることが多かったですね。それと比べると、今関わっている中高生は青年がいることで、少しこちらを頼ってしまう傾向があるかな？と思うこともあります。僕も経験がある分、つつい先走ってあれこれ言ってしまうことがあるのですが、見守るべきか言うべきか悩

むこともあります。子育てもきっと子どもを信じて見守らないといけないことがたくさんあると思うんですけど、いろいろと言ってしまいそうですね。

妻：私は教員免許を持っていますが、教師という存在ではなく、違う角度で子どもにより近くで一緒に考える存在でいたいと思っています。今は子どもNPOセンターが運営する児童クラブに勤務しているのですが、最近母親になったことで、今まで頭だけで知っていたことを体験して分かってきたような気がします。今の子どもはネットの情報でいろんなことを知っていて、自分の子どもの時とは違って見えるところもあるけど、何かに夢中になっている顔は変わってないし、子どもたちが本来持っている力は変わらないと思います。

夫：確かに今の中高生が話していることも昔の自分たちの頃と全然変わっていないよね。

妻：今までの経験を自分たちの子育てに活かしていけたらいいよね。

*子どもNPOセンターとは…
子どもの健全育成を目的としたNPO団体。文化・芸術を直接届ける活動や、チャイルドラインなど、子どもを取り巻く環境を豊かにするための活動を行っている。

今どきの男の子はルックスが良いだけではダメなのだそう。クッキングもできなきゃね。家事にも子育てにもママなお父さんが人気ですよ。

編集委員レポート

～仕事もプライベートも充実！～ ときめき☆ステップアップ術

女性限定
3回連続講座

とき：6月14日、21日、28日(木) 19:00～20:30 ところ：アオッサ6階 研修室
講師：加藤 喜代美氏(株)ドリームワークス代表取締役
主催：福井市男女共同参画・子ども家庭センター



講師は、女性リーダーとして、働く女性から絶大な人気を得ている加藤喜代美氏。家庭では11歳と6歳の2人の母でありながら、2社を経営し、執筆活動や企業研修まで行う忙しい毎日を笑顔で生き生きと過ごしている姿が印象的でした。今回は、心ときめく人生をつくるためのポイントを学んできました。

第1回 「なりたい自分になるために」

理想の自分について考えました。セルフイメージ(固定観念)を高める(できないでなく、できると思う)ことで生き方が変わるということ学びました。

第2回 「私のステップアップ計画」

「夢リスト」や「価値観づくり」、「個人目標計画」について学びました。夢から目標を設定することで、目標を達成するために日々の生活でどう行動するとよいのか見えてきました。

第3回 「ときめき☆時間活用術」

「優先順位のつけ方」、「手帳術」を学びました。時間が足りないと感じる毎日から脱却するために、自分の時間の使い方の癖を認識し、1日を有効に使うための極意を学びました。

最後に、加藤氏は「自分を楽しませてあげましょう。自分は何が楽しくて喜ぶのか、心ときめく時間を大切にしましょう。」と伝えてくれました。この言葉に、男女関係なく、どんな環境においても自分らしく生きることの大切さについて考えさせられ、そしてそれは参加者の、学ぶごとに明るくなる表情にはっきりと現れていました。特に女性は結婚、出産、育児と環境の変化を受けやすく、夢や目標を忘れがちです。しかし、日常生活の中に短時間でも夢を描き、自分らしさを大切に生きることは、喜びや自信にもつながり、これから先の人生を変える力になると感じました。そして、自分の子どもたちにも自分らしく生きることを大事にしてほしいと思いました。そのことを子ども自身も親の背中から学んでいくものではないでしょうか。

親子でちゃちゃっと一品 ~ 包丁いらずで子どもとチャレンジクッキング ~

ツナと塩昆布の炊き込みご飯

材料(4人分)

- 米 3合
- ツナ缶 1缶(80g)
- 塩昆布 30g
- 酒 大さじ2



- ① ツナ缶は軽く油をきっておく
- ② 洗った米と酒を炊飯器に入れて、水を3合の目盛りで入れる
- ③ ツナ缶・塩昆布を入れて炊飯器スイッチオン!!!

<ポイント>

今回はツナと塩昆布を使用しましたが、これ以外に薄揚げを入れたり、なめたけを入れたりすれば、いろいろなツナの炊き込みご飯が楽しめますよ。

蒸し鶏と水菜のマヨポンサラダ

材料(4人分)

- 水菜 2株
 - 鶏胸肉 1枚
 - 塩 少々
 - 酒 大さじ1
- [A]
- マヨネーズ 大さじ2
 - ぼん酢 大さじ4
 - 白ゴマ 大さじ2



- ① 胸肉に塩をまぶし、酒をふりかけ、ふんわりとラップをかけてレンジで3分30秒、そのまま2～3分蒸らす。
- ② 冷めたら細く手で裂く。
- ③ 水菜は食べやすい長さにキッチンバサミで切る。
- ④ ②と③を合わせて器に盛る。
- ⑤ 胸肉を蒸したときに出た汁と[A]を混ぜ合わせ、食べる直前にかける。

<ちょっとレベルアップ>

今回は蒸し鶏を手で裂いてみましたが、包丁で好みの厚さにカットして並べるとメインのおかずにもなります。ソースはゴマダレがおすすめです。

ゴマダレ

- 鶏ガラスープ(蒸し鶏の蒸し汁) 大さじ4
- 砂糖 大さじ2
- 味噌 50g
- すりごま 大さじ2
- にんにく 1/2かけ(すりおろす)
- 長ネギ 10cmほど(みじん切り)

男の世界に 女性リーダー出現!

フレフレ少女



DVD発売中
5,040円(税込)
邦画
主演：新垣結衣
監督：渡辺謙作
発売元：パップ

文学少女の百山桃子(新垣結衣)は、なぜか廃部寸前の応援団に入団。しかもなぜか、副団長(永山絢斗)から団長に指名されてしまいます。全然集まらない部員集めを乗り越え、寄せ集めの5人で野球部の応援に臨むものの、急ごしらえの応援団は空回り。その上、野球部からは「次からは来ないで」と言われる始末。

そんな矢先、OB(内藤剛志)ら主催の強化合宿に参加。鬼のように厳しい合宿を5人の団結力とOBからの『応援』で乗り切った応援団は、合宿後、応援の力で野球部を県予選の決勝戦まで導きます。それまで協力的でなかった吹奏楽部やチア部も応援に駆けつけ、学校一丸となって甲子園出場を応援します。そして…

女子応援団長という設定に初めは驚きましたが、映画の中では団員たちが違和感なく桃子を団長として受け入れています。それどころか、桃子を信頼し団の絆を深め合って関係を築いていきます。それは、彼女の性別に関係なく『百山桃子』という人間にみんながついてきた結果だと思えます。

男性ばかりの環境に女性が飛び込み奮闘する姿に、強い女性像を感じました。かつては「女性が組織のトップだなんて…」という時代もありましたが、価値観の多様化した現代では、男性でも女性でもかわらず活躍できる場が用意されつつあります。今日の世界で育った若者にとって男女平等はごく自然なことで、リーダーに性別は関係ありません。ただ、これは男性でも女性でも同じことが言えますが、リーダーとして活躍するには周りの協力が必要不可欠です。硬派な応援団の会議に桃子が参加した際、副団長や部員に助けられたように、女性のくせに…といった偏見をなくし、協力できることは協力するといった態勢を整えることも必要ではないでしょうか。

政治やスポーツの世界でも女性の活躍は目覚しく、なでしこジャパンの活躍も記憶に新しいかと思えます。今回の映画のように、かつては男性のものだけだった世界に、女性が入ってくるということもこれからますます増えていくことでしょう。

はやおき専員部の 落語べっせー

さて今号は子育てがテーマです。落語は「初天神」。季節が合わないのはご容赦ください。寄席では季節がまわらず演じるものなので、腕白小僧に手を焼く夫婦のやり取りから始まり、古典ですから、いわゆる昔の男で「おい、羽織を出してくれ!」と父(自分の着るものぐらいい自分で出さなさい!)と突っ込みたくなります。母がどこへ行くのか尋ねると、天神さんへ初参りだ。それなら子どもを連れて行って欲しいという母。行儀が悪く、いつも何かをねだられるからイヤだということですが、結局子どもにもせがまれて連れて出かれます。何も買わない約束で連れて出かけたにもかかわらず、飴だの団子だの買わされて、揚句の果てに風呂も買わされて「ああ、こんなガキ連れてくるんじゃないか!」と父。でも、子どもに風呂あげ教えると言われて、自分の方が夢中になってしまってお父さん。「風返して!」と子どもが言っても聞いてくれません。どうどう子どもが「ああ、こんなお父さん」

つあん連れてくるんじゃないか!」親子のやりとりがユーモラスな落語です。ぜひ生の高座をご覧ください! 「子どもと共に成長する子育て」がよいかなど思いますが、小さい時から関わっておくと、思春期になってから慌てなくて済みます。小さい時放っておいて、思春期に突然子どもと関わろうとするから、わがままになってオロオロしてしまうんですね。それまでの成長の軌跡を見ておくとよく子どもが理解できるので、困難があっても一緒に考えて乗り越えていけると思います。だから小さい時から育児休暇がもっと取りやすい社会になると良いですね。子どもと楽しめるのはほんの僅かな時間なのです。大切にしたいです。 それにしても、子どもと遊んでいて、子ども以上にその遊びに夢中になるお父さん、僕は好きだなあ。私も、子どもと見に行った人形劇や落語に子ども以上にハマってしまっているんです、エヘヘ。



福井の
アマチュア落語家
「ついで」



弱虫が強虫になる
～家庭は意識して作る時代～

和田周平 著 発行日：2008/7/8
発行元：和田教育研究所 価 格：500円（税込）

著者は、教員と教育相談機関に勤めた経験を活かして、福井県内の自宅で和田教育研究所を2002年に開設し、子どもの成長の研究やカウンセリングを行っています。この本では、人間はつい自己中心的になりがちですが、家族や他人を思いやることに、特に男性に必要であると強調し、「心に家族を意識して生きることの大切さ」を訴えています。

例えば、病気で入院した時、母親はたえず、子どものことや家事のことを気にしていますが、父親は自分と仕事のこと以外は、あまり気にかけません。男性全員がそうではないのですが、親として成熟していないのではないかと、著者は述べています。

現在はほとんどの親が外で働き、子どもと接する時間は、朝と夜のわずかな時間のみです。時代とともに父親も母親もその役割が変化して、父親と母親が対社会的に同質に近づきつつあります。その為に家庭での父親と母親の役割が混乱し始め、子育てで親も迷い、育てられる子どもも迷っているのが現状です。まず家庭内でそれぞれの役割を決め、その役割に対するお互いの思いやりが必要です。

少子化の時代で子どもも親に甘えすぎたり、頼りすぎたりする傾向があります。小さいころから、弱虫に育てるより強虫になれるよう、努力することから始めてはどうでしょう。

みなみさんは、お母さんがイラストの仕事をしています。「学校でも絵の時間が一番好き?」と訊くと「算数が好き」と。「絵ももちろん楽しいけど」とも。音楽も好きでピアノは連合音楽会の伴奏を任される腕前。体育が苦手かと思うと、スイミング歴7年、シュノーケリングや弓道にもチャレンジしています。料理はお母さんと作るキャベツのサラダ、お父さんが作る納豆卵焼きが大好きです。

ピアノはお母さんも子どもの時代に習っていました。「スポーツは?」と尋ねると「冬は毎週お父さんとスキー!」と答えてくれました。みなみさんとたくさん遊ぶ元気なお父さんは、親戚の子ども達とも遊んでくれます。「将来はピアノの先生になって、夏はスキューバダイビング、冬はスキーのインストラクターもしたい」と、元気いっぱい、夢いっぱいの6年生。自立した素敵な女性に成長してくれそうです。



清水東小学校 6年生
上田みなみ さん

パートナーからの暴力ホットライン

配偶者や恋人などからの**身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・社会的暴力・性的暴力・子どもを巻き添えにした暴力**に対し、下記機関があなたを支援します。

福井市男女共同参画・子ども家庭センター 相談室		福井市手寄1-4-1 (アオツサ5階)	0776-20-1541	水曜日～翌月曜日 (年末年始を除く)	9:00～18:00
センター 被害者支援	福井県生活学習館 (ユウ・アイふくい)	福井市下六条町14-1	0776-41-7111 0776-41-7112	火曜日～日曜日 (第3日曜日、祝日の翌日、12/28～1/4を除く)	9:00～16:45
	福井県総合福祉相談所 女性相談課	福井市光陽2-3-36	0776-24-6261	月曜日～金曜日 土・日・祝日	8:30～22:00 17:15～22:00
	福井健康福祉センター 福祉課	福井市西木田2-8-8	0776-36-2857	月曜日～金曜日 (祝日、年末年始を除く)	9:00～16:45
警察本部	女性被害相談電話	福井市大手3-17-1	0120-292-170 0776-29-2110	月曜日～金曜日 (土・日・祝日、年末年始は留守番電話)	8:30～17:15
	警察安全相談室	福井市大手3-17-1	#9110 または 0776-26-9110	毎日	24時間対応
福井地方法務局 女性の権利ホットライン		福井市春山1-1-54 (福井春山合同庁舎)	ゼロナナゼロのホットライン 0570-070-810 (PHS, IP電話からはつながりません)	月曜日～金曜日 (祝日、年末年始を除く)	8:30～17:15
福井県人権センター		福井市手寄1-4-1 (アオツサ7階)	0776-29-2111	火曜日～金曜日 第2、4日曜日とその前日の土曜日 (祝日、年末年始を除く)	9:00～17:00
公益社団法人 福井被害者支援センター		福井市文京2-13-5	0120-783-892	月曜日～土曜日 (祝日、年末年始を除く)	10:00～16:00
特定非営利活動法人 福井女性フォーラム		福井市網戸瀬町18-36	0776-55-0563	水曜日 (12/28～1/3を除く)	19:00～21:00

DV相談ナビ (配偶者からの暴力被害者相談窓口)

内閣府 男女共同参画局

0570-0-55210
(PHS, IP電話からはつながりません)

最寄りの相談窓口を案内
希望される場合は転送します

24時間対応

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)があなたを守ります。

編集後記

今回は「子育て」をテーマに、結婚したばかりの私の関心事である「イクメン」「イクジイ」について取り上げました。共働き率の高い福井でも、まだまだ潜在的に「家事や育児は女性の仕事」と考えられているようですね。夫婦生活は最初が肝心。まずは、夫にアイアムを読ませようと思います。

企画・編集/アイアム編集委員

- 栗原 知子 大橋 春美
- 児玉 定美 廣瀬 静子
- 藤田 恭平 (50音順)

※この情報誌をご希望の方は、男女共同参画・子ども家庭センターまでご連絡ください。